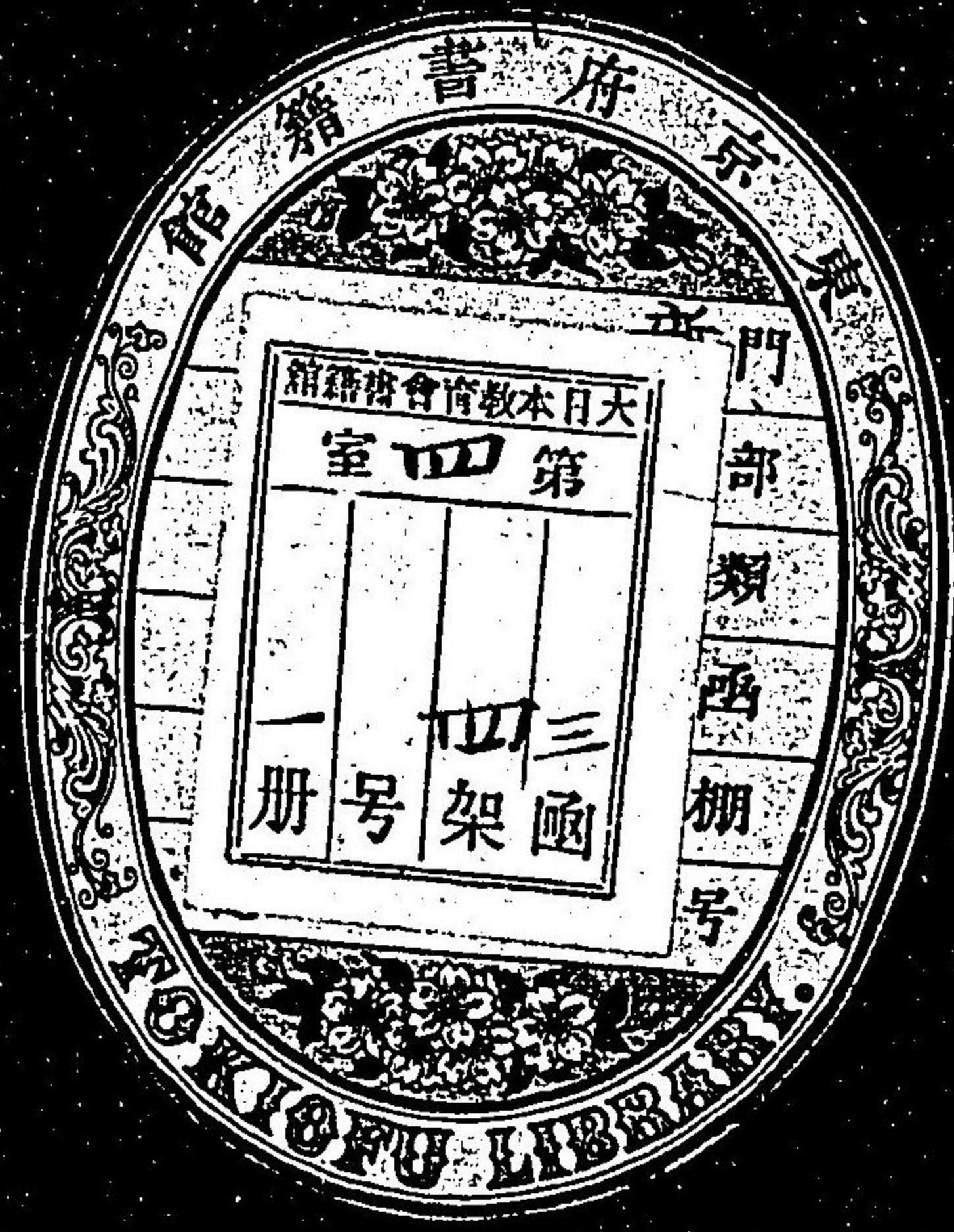


風俗往來



特32  
174  
五  
一本

027312-000-6

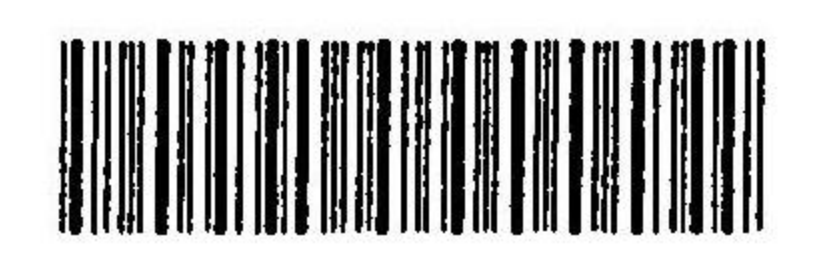
特32-174

皇国風俗往來

卷菱潭書

刊年不明

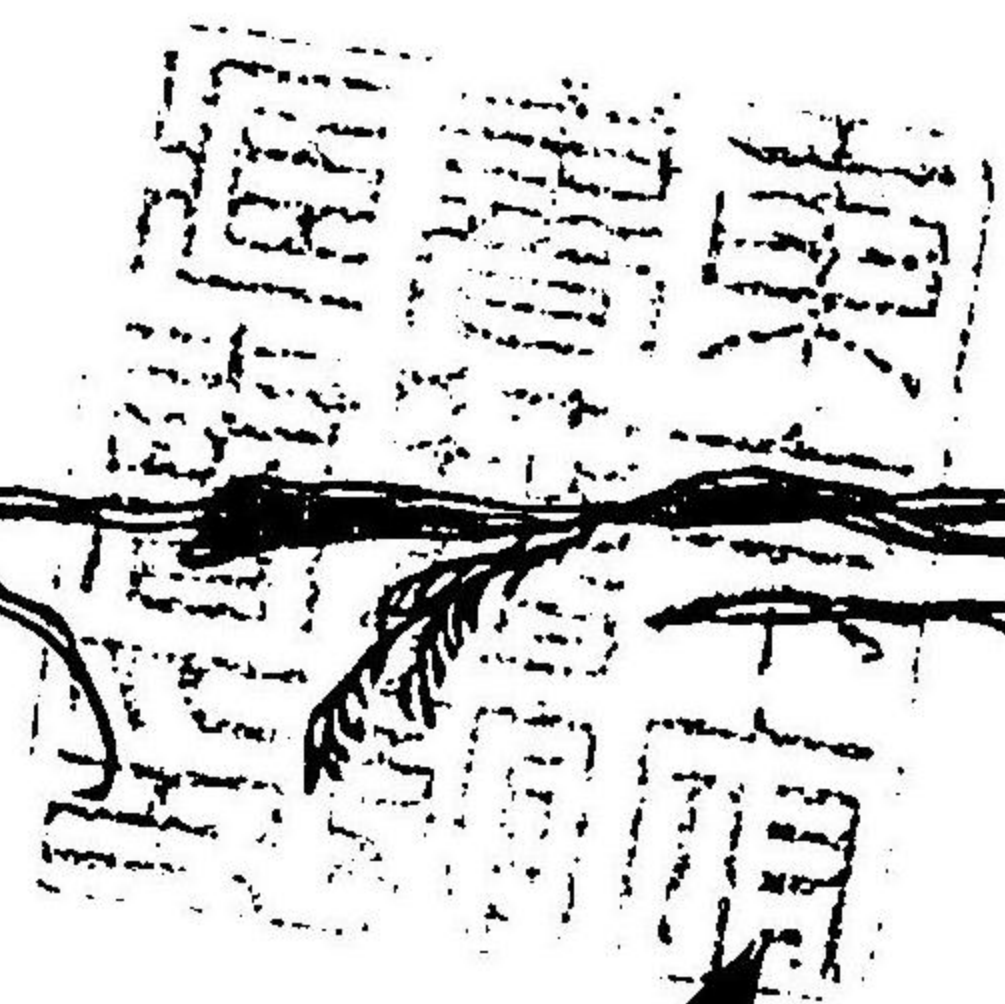
ADJ-0063





特32

174



江戸湊

萬笈閣發兌



皇國

風俗往來

深澤菱潭書

東京

萬笈閣發兌





皇國風俗







倍々其海

每里之同

能由也

とん時代

了。沿革等

表ありて



其海の法も

其教も亦も

初の皇國の

風俗も亦も

神代のも

よも亦も一君上



位くらゐ之の臣こゝろ氏しん

統と御ご宗すけ名な權けん

阿あ奉ほう之の公こう明めい

尊そん大たい神しん道どう

武ぶ在ざい之の大たい

河か家け之の夫ふう



心より奉る

如き志をひさ

き給ふ事

存く民の愛

世に君を仰

まはしる



上下乃一和

を主として建

たきふ子乃

はめが天

和國和

御名も貞



通之杵の号12  
み

法由之降2  
の  
あ  
田  
み

皇之帝也き

有之曰向乃ひ  
る  
が

國不代之也こ  
の

海之中興ち  
の  
ち



神武天皇の

辛酉を紀

元と夫より

以て此のみよ

百有千國

乃盛衰世の



皇國風俗

風俗ふうぶく之の法はふ也なり

亦また何なに者ものをを重おもむむ

之この心こころをを短みづかししむむ

或ある可べしし可べしし也なり

之この心こころをを重おもむむ

也なり



志乃人其心也  
中乃人所為也  
一志如心

國氏一也

元。臣下を以て  
如也。心也。



ま〜て如自みづゝら

ひも下如か〜と上

を如のを〜る

賊ぞく〜るな〜

子こ〜るな〜

古こ〜るな〜



見法甚了

如くもとわ

さう大日影

えむらきよ

志をいふ

るなるなり也



朝綱あそひかとび度た

ゆんとんのり

権けん治し権けんをを

才さいとらのり武ぶ治しのり

國こく争そう古このり

志しとらのり穩うへのり家か



らぬを末冬。

政權を小

かへりて

朝憲を

かへりて

かへりて天地の



礼を起す。

比古本を以て

比古の年ねん

教を起す。

有志の起す。

の起す。



呵ト軍ク不ン平ク

右ト々ク人ク

今ナ上ク御ク即ク

位ニ々ク々ク

々ク々ク々ク

々ク々ク々ク



以也了却

了者國乃

交際あひまひ比ひ乃

和國威わこくゑい也

如也かゝ出いる

志し乃の也や。



海外諸島の

上段より其

國爵所んて事

玉と石と珠の

るふは國あり。

女と神佛



文  
字  
の  
部

文  
字  
の  
部  
道  
文

字  
の  
部  
支  
那

文  
字  
の  
部  
西  
洋

文  
字  
の  
部  
解

名  
の  
部  
礼

文  
字  
の  
部  
通

文  
字  
の  
部



皇國廣作

國有如此學也

者必の文武

乃隨子小地理

至又家新理應

史之涇漸學

西之難治也

皇國

井〇



海政沿革學

海產學

航海學

畜產學

學精畜牧

畜植學



皇國風俗

本草圖書

學子建築學

その他之技藝

左のふかき考

足らぬこと

左の東洋の

皇國風俗

中



皇國原

府下をさけ

めて府縣下

り津浦の

末まては學

校被けおま

た由ひ人氏

皇國原

〇三〇



保是復のそま  
阿く是備  
き今の奔り

とこれの總  
て世界のり  
事なるか



用ひて自國

の良智を

かく種となす

益より以て

あつてあつて

色やうなる



らそそ付吉

今よりかよふ

國の風いよめ

山物魂津木

ヤマトダマシヒ

カラノサエ

如らん人屋音

若者よ〜四智



頑固外門玉

をさあ戎蠻

秋禽歎子

死や〜死

言ておのま

ろく中華



河をひいす  
玉とほらま  
あからりこ

あははる  
をえん磨りて  
地をたぬ



母之令支那ころの

事ことなるを好このむ。

古きをを新國こころ

の風俗かぜを

於あるにまじます。

古きをを新國こころ



古之禮を昔の

字のしるしを

海の玉の字を

言をぬ國と

うたを及

事へんを



さうしてその旨

必の其地位

る。太平洋海を

東南より

解支那を

西より



西亞乃東

獨立以緯

是月二十九日

四十日友友

とらやま

本之沼海の



園日冬末

京出大坂

府ま下如

関越子

敷加員廻

三尻の港を



經門、東京  
小幡、來  
左の、河、門

一、冬、凡、子、九  
百、七、十、里  
河、中、李、子、枝



東京西之京

大坂の三之府

小縣の六之十

好琉球各尚

藩を以て小

海道を關



拓使等の管轄  
官制  
國行如左

二十六个國  
郡數七百十  
七郡古如内

國名

○



八十七郡

新

け

梅

古國

郡名



しとらぬくし。  
金國およそ  
の石高百廿二

千二百六十  
二万外琉  
球十四万の餘



戸數者七百

零五五八子

九百八十餘

人口高乃大

凡者三三三

七十九五八



子八百九十餘

有如此者

華族人數

四百三十四人

少者十族

早午二時



五百七十九

人持杖

港の生數

凡二百四十

餘口五音物

乃概之動產



物の甘ん中糸

少きも能く

獣類よき

羊山羊蹄子

駱駝象角

豹獅冬見



一人一牛

各食其乳

乳之方。復也。

如之者。正也。

とて乳融

類の食也。



普く阿る

事は有馬

各甚しく小宗

如く其其刻

と傳ふ事あり

承猪也塵土



鹿か 熊くま 猪ち 兔うさぎ

中ちゆう 冠かん 狐こ 狸り

猫ねこ 鼠ねずみ 烏くわ 鷄にわとり

鸛ろ 雀すずめ 鳩とむ 鴉あひう

木き 了りやう 為ゐ 多た

國くに 丸まる 通と 圍ゐ 心こころ



海左の幸也

水換るおひ

た中へ

鯨鯛魚丸

脩鯉に丸

鰻鮎是おの



古之死由民

乃法令用亦

世之多架叔

植產物亦至

里之各相相

櫻梅桃李



櫻名色元法さくら

穀多く満こむぎ

板村尔用为いたむら

了心母也りょうしん

母对道也ははたいだう

心之花也こころの花



去々々母是也

去々々々々

村無々々々

舉了以以也

有々々田野

也々々々肥



沃よくくとと人ひと民たみ

耕かくく稼かままををままくく

とと心こころををままくく

用もち解ときき途みちををままくく

一ひと母ははををままくく家いえ

るる國くにのの内うちををままくく



の枝と南西の

地を砂糖糖

子也茶の類

東北の地也

桑おほくは

陸地製するの



心こころを織オリ物もの

類るいし音ね角かくく

米こめを陣じんさる

外そと玉たまり。穉ち子こ

輝こほ種ね子この

名なを聞きき



以こ中ちゆう持ぢ也や也や

以こ中ちゆう持ぢ也や也や

麦むぎ大おほ豆まめ小こ豆まめ

胡こ麻あし也や也や胡こ

椒しやう樟ちやう腦のう等と

之こ也や也や何なに也や



の地多しあり

礦屬物の徒

汲むる者

山に富むる土

地多し金銀

錫鉛銅鉄



そのうち  
金銀

金銀  
輸出

輸出  
品

米麦也  
鉄

銅  
石炭

蠶繭  
生絲



生綿なまわた多おほく為な目め詰づめ

布ぬい茶ちや縹へん菜さい

河か海うみ老らう行ぎやう

錫しやく女によ多おほく比ひ毛もう

旧きう鮎あひ村むら木き

控こう廻わい製せい老らう造ぞうのの



ものゝく漆物

陶器お存は

此よん人今

心誠盡し身

を勤め年

を古く産物



能みだこふ末まゑを頼たの  
 母ははに起おこす  
 和わ金かねよりより年とし

了りょう輸ゆ入いの品しん  
 各おの物もの無む紹しやう鉄てつ  
 葉は末まゑ水みづ以もつ篠しの油あぶら



硝子智通甲冊

玳珠象牙金

中更紗冠

紗唐棧吳

海子之匙

書竹藉機巧



道だう具ぐ西せい海かい來らい。

船せん來らい左さ右う。

内ない國こく能のう民みん巧こう。

日にち用よう產さん量りやう多た。

禁きん未み由ゆう法ぽう代だい。

のの力りき。



